

Rinnai

経営の方向性

中期経営計画「ジャンプUP 2014」の推進

2013年11月5日

ガス機器

<生産国>

日本・アジア・オセアニアなど



ビルトインコンロ



炊飯器



給湯器



ファンヒーター



テーブルコンロ



衣類乾燥機



暖炉

電気機器

<生産国>

ニュージーランド

ASEAN諸国

中国

韓国

日本(レンジフード・食洗機)



レンジフード



給湯器



食洗機

ソーラー機器

<生産国>

オーストラリア

ブラジル



ソーラー温水パネル

ハイブリッド機器

<生産国>

オーストラリア(ソーラー+ガス)

ブラジル(ソーラー+ガス)

日本(電気ヒートポンプ+ガス)



ハイブリッド給湯・暖房システム



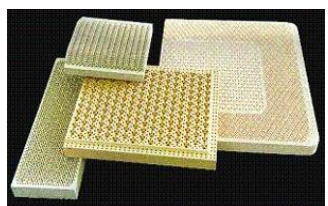
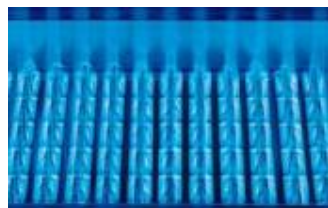
ソーラーシステム

家庭用機器を中心に各国の生活文化やエネルギー事情に合わせた熱機器を提供(世界80カ国)

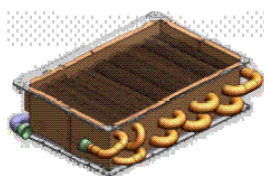
モノづくりの基本哲学 — 品質・安全のあくなき追求 2

経営基本理念 「品質こそ我らが命」

熱に関わるコア技術の自社開発



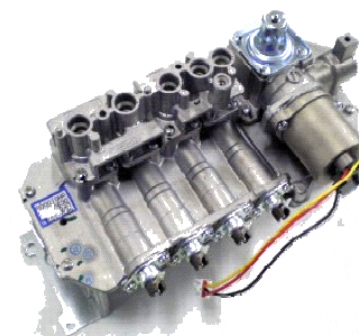
バーナー



熱交換器



電子ユニット



ガスバルブ

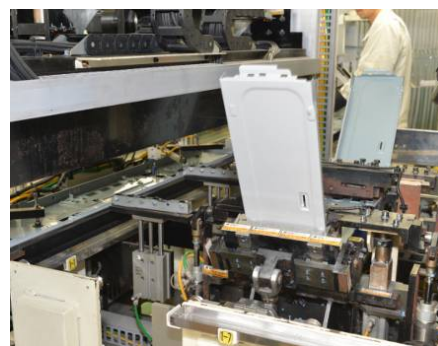


水バルブ

重要ユニット・部品の内製化 — 加工から組立までの一貫生産



プレス加工



板金加工



切削加工



組立ライン

品質に関わる重要ユニット・部品は自社で開発し、グループ内で生産

Rinnai

中期経営計画の推進(2012~2014年度)

《 連結 》

中期経営計画「ジャンプUP 2014」

[単位:億円]

		12年度 実績	13年度 上期実績	13年度 上期目標	13年度 通期目標	14年度 通期目標
売上高		2,518	1,273	1,240	2,680	2,800
売上高内訳	国内	1,729	791	800	1,760	1,800
	海外	789	481	440	920	1,000
営業利益		263	124	120	300	330
営業利益率		10.5%	9.7%	9.7%	11.2%	11.8%

上期目標クリアで中計の中間点を順調に折り返し

今後の見通し — リンナイを取り巻く環境

プラス要因

国内	<ul style="list-style-type: none">・高付加価値商品への買替進行と世帯数増加の継続・エコワン(ハイブリッド給湯・暖房システム)をはじめ、新規商材の成長加速・中核商品のラインアップ強化と生産体制の合理化推進
海外	<ul style="list-style-type: none">・新興国の世帯数増加、ガスインフラ拡大と生活水準の向上・先進国の環境・省エネ政策推進と回復基調の経済

マイナス要因

国内	<ul style="list-style-type: none">・消費税率アップの影響(買替主体のため、軽微と想定)・原材料価格の上昇
海外	<ul style="list-style-type: none">・新興国における労務費上昇(購買力増加で後のプラス要因となる)

プラス要素が多く、中長期的に増収増益が見込める

2012～2014年 中期経営計画「ジャンプUP2014」

目指す姿

総合熱エネルギー機器メーカーとして 世界の人々の暮らしと地球環境に貢献

- ▶ 商品ビジョン：地球環境に貢献する総合熱エネルギー機器メーカー
- ▶ 地域ビジョン：世界の人々の暮らしの向上に貢献するグローバル企業
- ▶ 機能ビジョン：独自のビジネスモデルが人やパートナーを惹きつける企業

3つのジャンプUP

- 1 ゼロディフェクトの追求で **品質レベルUP**
- 2 開発・生産・販売のプロセス革新で **機動力UP**
- 3 人づくりとグループ連携で **組織力UP**

最終年度 経営数値目標

売上高	2,800億円
営業利益	330億円
営業利益率	11.8%

目標に変更なく中計の完遂を目指す

省エネ・環境性No.1の給湯器



給湯一次エネルギー消費量を
ガス給湯器に比べ
40%削減(※2)



※2 省エネ基準の新地域区分6地域、延床面積:120㎡ ガス給湯器 (JIS効率78.2%)に対する削減率

ハイブリッド給湯・暖房システム「ECO ONE」は、
電気ヒートポンプ給湯器(エコキュート)を大きく上回り、

給湯一次エネルギー消費量が

最も少ない給湯器 (※1)

として評価されています

※1 2013年2月現在 ハイブリッド給湯・暖房システムECO ONE(シングルハイブリッドシリーズ100Lタイプ)低炭素建築物の認定基準の給湯一次エネルギー消費量比較

さまざまな住宅に対応するラインアップ



タンク一体型

タンク・給湯器分離型

- ・機器構成によって戸建やマンションに対応
- ・本格暖房やふろ給湯など生活スタイルに合わせたバリエーション展開
- ・太陽光発電との組合せで売電量アップ
- ・スマートハウス時代の社会インフラへ

浴室暖房乾燥機

温水で浴室を暖かく・快適に

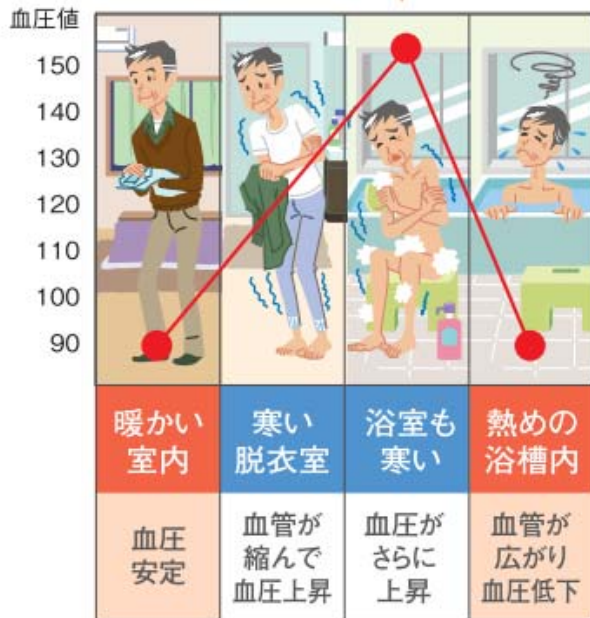


- 浴室暖房
- 衣類乾燥
- ミストサウナ
- 涼風
- 浴室乾燥
- 換気



冬の入浴時に多い「ヒートショック」を防止

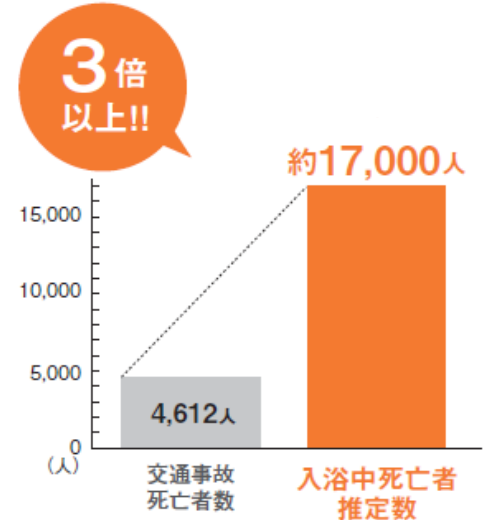
●温度差によって変動する血压



急激な血压変動が、入浴時のヒートショック事故を引き起こす一因に！

入浴中の死亡者数は交通事故死亡者数の約3倍以上

●交通事故死亡者数と入浴中死亡者数の比較 [2011年]



※出典：東京都健康長寿医療センター研究所「高齢者の入浴中の急死に関する調査」2011年 総務省統計局「平成23年中の交通事故死亡者数について」

人気のDELICIAシリーズがさらに進化



お客様の声に応え、機能性・操作性・清掃性・デザイン性をさらに向上



好評のヒートオフ構造・スモークオフ機能を継続しながら、天面液晶に見やすい大型ドットマトリックス液晶を採用

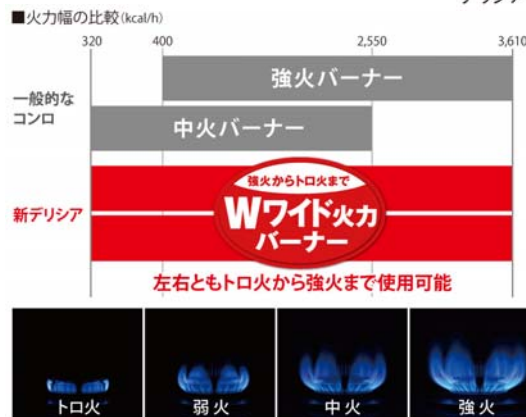
New
DELICIA
デリシア

8/1
発売



GOOD DESIGN
AWARD 2013

ビルトインコンロ「New DELICIA」は「2013年度グッドデザイン賞」(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました



左右ともトロ火から強火まで使用可能なWワイド火カバーナーを搭載



業界初の連続オートグリルで、自動調理の2回連続使用が可能



ごとの横のツメを長くすることで、設置しやすく、安定感がアップ

機能性とデザイン性を備えた、ラクラクを楽しむコンロ



最上位モデル「Ancie」で評価の高い調理性・
お手入れ性に関わる機能を全て採用

 ヒートオフ

 オートグリル機能

 お手入れかんたんグリル

LAKUCIE  8/26
発売



ブラウントーン

ピンクトーン

レッドトーン

キッチンのスタイリングに
合わせてインテリア感覚で
選べる3色展開

ガスのパワーでふっくら・やさしく衣類乾燥



13年ぶりにフルモデルチェンジ

- ・洗濯時間が短縮され、家事の時短化に一役
- ・天日干し同様の除菌効果で清潔乾燥
- ・外干し不要で花粉の季節や大気汚染も安心
- ・繊維の根元からふんわりと快適な仕上がり
- ・新たにプラズマクラスター技術を搭載(静電気低減効果)

はやい
乾太くん



プラズマクラスターロゴおよび
プラズマクラスター、Plasmaclusterは
シャープ株式会社の登録商標です。

乾燥時間の比較



電気式の
約1/3!

しかも屋内設置の場合でも
湿気が室内にこもらない!

※条件:実用衣類5kg(綿50%、化繊50%)/脱水度70% RDT-52Sで算出。電気式はドラム式洗濯乾燥機を使用。ガス種:LPGの場合
リンナイ(株)調べ

パワフルな温風で乾かすので、
乾燥時間は電気式の約1/3

こんなにふっくら具合に差があります!



大容量ドラムにガスの強い温風を
送り込み、ふっくら仕上がり

連結設備投資計画

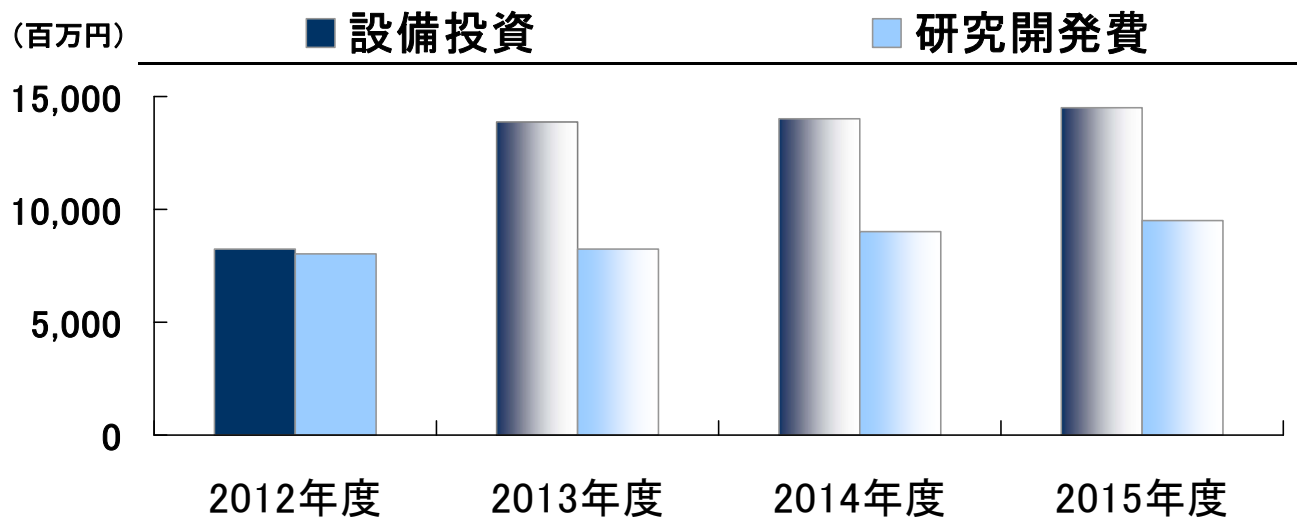
通期の連結設備投資 実績と計画

(百万円)

	2012実績	2013計画	増減額
設備投資	8,222	13,900	5,678
減価償却	8,805	8,700	-105
研究開発費	8,060	8,300	240

今期の設備投資は
約56億円の増額

今後の設備投資計画



今後も中期的に
140～150億円の
投資を継続予定

国内(次なる技術革新への体制固め)

製造

新工場を軸にグループのモノづくりを革新



暁工場
浴室暖房乾燥機の一貫生産から稼動
13年5月～



ハイブリッド
給湯・暖房システム
ECO ONE



浴室暖房
乾燥機

- ・ECO ONE(エコワン)3万台体制造り
- ・今後の成長の柱であるシステム商材を合理的に一貫して造る体制構築

開発

- ・研究開発設備の増強
- ・生産技術センターの体制強化



生産技術センター

営業

- ・営業拠点のスペース拡充
(北海道・北陸・関東・関西・中部等)
- ・物流、サービス体制の強化・充実



つくば研修センター

海外(成長ドライバーへの戦略的投資)

- ・アジア生産拠点の生産能力増強(中国、インドネシア、ベトナム、タイ 他)
- ・次の成長期待市場への戦略的投資(アセアン、欧州 他)

熱と暮らしを創造する

Rinnai

本資料に掲載されております業績予想や将来予想は、現時点において入手可能な情報に基づき当社が判断して予想したものであり、実際の業績は今後様々な要因の変化により予想とは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。